

trivia ■ 皮膚科のトリビア ■ (161)

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで聞きしたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

Aicardi-Goutieres症候群(AGS)とは

第41回日本小児皮膚科学会から(平成29年7月8日)

重度心身障害をきたす早期発症型の脳症。臨床症状は易刺激性、間欠的な無菌性発熱、頭位成長の低下、発達退行などの重症脳症の経過をとる。約4割の患者で手指、足趾、耳などに凍瘡様の皮膚病変を伴う。提示された症例には手足に胼胝様の病変もあった。近年ではより軽症な非典型例が存在することが明らかになってきている。変異する遺伝子により5型に分類され、TREX1の変異がもっとも重症になる。

「SLEを合併することがあり、免疫学的検査で補体低下、IgGおよびIgMの上昇をきたす例もあるようだ。神経学的には胎生期ウイルス感染様の表現型をとり、偽TORCH症候群とも呼ばれているとのこと」。

ケラトアカントーマはやはり存在する

山形乾癬セミナーから(平成29年7月13日)

ケラトアカントーマ(KA)はKA like verrucaかKA like SCCしかない、という見解があったが、やはりKAという疾患は存在するという話。ただし、low gradeのSCCとの臨床的な鑑別はむずかしい。KA自体があるとすれば良性の腫瘍であり、KAと診断した症例が

リンパ節に転移したという経過は、KAの中にSCCが生じた(悪性転化)と解釈するのが正しい。KAの組織像をみると辺縁には核異型性があるが、中央に行けば行くほど、特徴である大型の細胞(large pale pink cell)が目立ち、これは毛包峽部の細胞に類似する。「結局は、切除をして組織を見るのがよさそう。1カ月間様子をみて自然消滅しないようなら切除する、という方針もあるが、顔や頸部の場合には待っているのも気の毒である」。

精米店の幼児にみられた米ぬかアレルギー

第874回日本皮膚科学会東京地方会から(平成29年9月9日)

5歳の男児。ぬか漬けの摂食で口腔内アレルギー症候群。実家が精米店で、実家に行くと目の痒みと咳嗽が生じる。米ぬかのプリックテストで陽性で、米ぬかによるアレルギーと診断した。アレルゲンは、コメの52 kDaグロブリンが主に米ぬかに、19 kDaグロブリンが白米に存在し、それぞれに対するIgEが検出された。経皮感作が疑われるとのこと。

「米ぬかも石鹼やパックに使用されていると聞く。食べられるものだから皮膚にとっても安全という神話は『茶のしずく石鹼』問題で完全に崩壊したはず。ちなみにイネ科花粉によるアレルギーとは関連がないらしい」。

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにもある場所」。そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ケ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス:

<http://www.asai-hifuka.com>

Erosive pustular dermatosis というCrohn病の皮膚症状

第874回日本皮膚科学会東京地方会から(平成29年9月9日)

Crohn病のある若年女性。頭皮に膿疱とびらんが多発した。細菌培養陰性で抗菌薬も無効。Crohn病に伴うErosive pustular dermatosisと診断し、インフリキシマブの投与で軽快した。Erosive pustular dermatosis of the scalpとして報告される症例が多く、Crohn病との関連が深い。潰瘍性大腸炎や関節リウマチに伴う症例もある。

「臨床像はかなり特徴的で、一度みたら忘れられない皮膚症状。いかにもCrohn病と関連がありそうな症状だった。開業医が遭遇することはまずなさそうだが、覚えておこう」。

疥癬が原因で生じた 水疱性類天疱瘡

第81回日本皮膚科学会東部支部総会から(平成29年9月23日)

疥癬の患者には多彩な皮膚症状が続発し、水疱性類天疱瘡(BP)や穿孔性皮膚症が生じることがある。BP様皮疹を伴った疥癬の症例が1990年代にいくつか報告されているが、病理組織学的には表皮下水疱で、蛍光抗体直接法でもIgG、C3の線状ないし顆粒状の沈着がある。BPと鑑別が困難であるが、ステロイド内服に反応せず、疥癬の治療で改善する場合が多い。時間的な経過として

は両者がほぼ同時にあるいは随伴して生じている。

「一方で、とくに疥癬の既往のある患者にBPが生じ、それに対するステロイド内服治療を行うことによる免疫抑制のために疥癬が発症(再燃)、重症化する症例も報告されている。疥癬のBP様皮疹があるかないか、今後の検討を待ちたいと思う」。

乾癬性関節症では抗ヒストン 抗体を調べておくとうい

第81回日本皮膚科学会東部支部総会から(平成29年9月23日)

乾癬患者で抗核抗体が陽性であった症例の解析の結果、4例で抗ヒストン抗体が陽性であった。この4例は皮膚病変は必ずしも重症ではなく、抗CCP抗体も陰性だったが、いずれも重症の腱炎・付着部炎を伴う乾癬性関節症であった。抗体価は病勢とも関連していた。

「なんらかの関連があるのかもしれない。開業医ではX線撮影や関節エコーができないので、採血で関節症を評価できれば有用だと思う。機序の解明が待たれるところである」。

